

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2025(令和7)年 8月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）〒759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

平和の鐘を撞きましょう

法要終了後

九時四十分頃から

平和への願いを、響き渡る鐘の音に重ね、
いのちを尊ぶ生き方の一歩としましょう。
どうなたでも撞くことができます。

一時間弱の短い法座です。
暑い中ですが、お誘いあわせお参りください。

若院が、法話トボコーいたしまわー！

八月十五日（金）朝九時より

盆法会

魚法会
全戦争犠牲者追悼法要
マニフェスト

※ お盆期間中、納骨堂にお参りされる方。ぜひ本堂にもお参りください。
懐かしい写真も掲示しております。

お寺から
お願い

納骨堂の参拝についてのお願いです。くれぐれも火の後始末をお願いします。特に、続けてお参りされる場合、ロウソクの火を「次の人のために」と消さないままにされるところに落とし穴が！結局つけっ放しで危険なことに…。次の方に「ロウソクの火を消して下さいね」と、一言かけていただけます。





オシエノカケラ

OSHIE NO KAKER

新シリーズ「がん」と共に 第一回 「それでも人生にイエスと

【現状報告】

これまで使つていた抗がん剤の効果が

このままいくしかありません。これからも、短期入院を繰り返しながら、薬を入れることになるようです。

【「世間の声」に抗うには】

り、六月末より三週間の再入院をいた

しました。吐き気やだるさなどはなく、元気に過ごしています。

ただ、副作用からくる便秘がきつくて、これには参りました。

便秘つて、こんなに苦しいものだつたのですね。あと、髪の毛が

抜け始めています。シャワーの後に鏡を見ると、地肌が見え、

プロレスラーの鈴木みのる選手のよう

す。どうせ抜けるなら、丸坊主にとも

思うのですが、抜けた毛にある程度の

長さがないと、後始末が大変なのだと

うで。だから、一段落つくまで、→



～OSHIE NO KAKER～ OSHIE NO KAKER～ OSHIE NO KAKER～ OSHIE NO KAKER～ OSHIE NO KAKER～

さて前回、病いに伏す人に對して「ああなつたら終わりだ」と呟いた先輩住職のお話をさせていただきました。あの言葉があつたからこそ、私はもう一度、「ああなつても、終わりではない」といえるお念仏の教えに出遇い直すことができた、と。そしてそのことが、今の私を支えてくださつていてることを。しかし考えてみれば、近頃は「ああなつたら終わりだ」と考えている人の方が、多いのではないでしようか。死んだら終わり。動けなくなつたら終わり。人に迷惑をかけたくないし、あんな惨めな姿は晒したくない。周りを見渡せば、そう言われる人は結構おられます。だからこそ先輩も、あの言葉を→

軽々しく言えた。いや、そんな世間の感覚が、彼に語られたのではないかと思うのです。

これは、他人事ではないのでしょうか。私も、次男の病気がなかつたら、親しい人が伏せつていなければ、世間の空気に流され、同じように思つていたかもしません。それほど、世間の声や時代性というものは、大きな影響力で私たちを包んでいます。これまでの枠組みが揺さぶられるような、大きな出会いや出来事がなければ、世間の声に抗うことは、とても困難だと思います。

「心身の不自由は進み、病苦は堪え難し。去る六月十日、脳梗塞の発作に遭いし以来の江藤淳は形骸に過ぎず。自ら処決して形骸を断する所以なり。乞う、諸君よ。これを諒とせられよ」

前年に、長く連れ添つた妻を亡くされています。ご夫婦の深い絆は、著書『妻と私』で綴られており、最愛の人との別れという大きな背景がありました。その後、脳梗塞の発作を起こし、後遺症で心身の不自由が進行したことも原因だと見られています。その苦しみの深さを思うと、言葉になりません。

入院中、『江藤さんの決断』（朝日新聞こころのページ編における文芸批評の第一人者であり、憂国の論客として社会的にも大きな発言力を持つておられた江藤淳さんの決断について、朝日新聞が読者の投書を募り、まとめたものです。

江藤さんは、一九九九年に鎌倉市の自宅で自死されま

した。六十六歳でした。翌日には、短い遺書が公表されます。



この決断に、当時、多くの著名人が「死に際がすつきりしている。流石だ」と褒め讃えました。遺書は、名文として当時の新聞の見出しにもなりました。そして、『江藤さんの決断』に掲載された投書にも、当初はその心境を理解し、共感を

示すものが多く寄せられています。亡き妻を追うように死を選んだ心情への共鳴。「醜い姿を晒したくない、迷惑をかけたくない、という気持ちは尊重されるべき」という尊厳死についての意見。軍人の多い家系の江藤さんだからと「男らしく潔い決断であり、武士としての美学は尊重したい」という主張。そして、同じく妻に先立たれた男性たちの、人生の黄昏が迫る中で出会つた、本当の孤独に対する悲痛な思いなど。

しかし時間が経過すると共に、批判的な投稿が増えていきました。そこには、それぞれに苦しみや孤独を抱えながらも、現状を何とか受け容れ、もがき、精一杯生きようとする人たちの歩みが綴られた、深くて重い言葉が数多くありました。特に、江藤さんの遺書にあつた「形骸」という言葉には、多くの反発があつたようです。その根底には、「ならば、私は形骸なのかな」「私の姿は醜いのか」「私たちには、生きる資格がないのか」といった、存在をかけた叫びが込められているようを感じました。

私には、江藤さんの決断を批難することはできません。

私もそんな弱さがあることを、よく知っているからです。苦しみの中で、弱音を吐いてしまうこと。周囲に当たり散らしてしまうこと。逃げ出してしまうことは、人間である限り誰でもあり得ることでしょう。それを選んだからと責めるよりも、その人の人生を否定することもできません。

しかし同時に、この決断を「諒とせられよ」と言われても、肯くことはできないのです。ましてや美化することなど、してはならないと思つています。なぜならそれは、どこまでも悲しむべき決断だから。

「死にたい」という人に、「死んではいけない」という言葉ほど残酷なものはない、と聞いたことがあります。「自ら死を願う。その人の思いを尊重したい」といわれる方もおられます。確かに、そうなのかもしれません。でも、思うのです。その方は、本当に死にたいと思っていたのかと。心の底では、生きたいと願つていたのではないか。ただ、死にたいと思つてしまふほどの状況に追い込まれていたからではないかと。

その状況とは、身体的な苦しみだけではないはずです。「今

のあなたは、もう形骸に過ぎない」「醜い姿を晒すのは恥ずかしい」「もう生きる意味も価値もない」「美しく死ぬべきだ」、そんな世間の声に圧され、自分を責め、追い詰められてはいなでしようか。

ならば、「諒」とし美化することは、「死にたい」と思う人を尊重する行為ではなく、「死にたい」と思う人を生み出す行為に他なりません。厳しい状況でも、もがくように生きようという人の嘗みを蔑み、否定する行為でしかないので。

私は、生にのみ執着しているわけではありません。ただ、死を受け容れることと、自ら死を選ぶこと（死を選ばれること、生を否定すること）とは、明確に違う。そのことは、はつきりと主張したいと思います。

「ああなつたら終わりだ」と否定する人の言葉は、私には軽々しく聞こえます。人生を簡単に決めつけるなどとも思います。一方、「ああなつても終わりではない」ともがきながらも、輝きを見出していかれた人の歩みからは、人生とは何と奥深いものなのかという驚きと共に、これまでの枠組みが揺さぶられていくのです。

【それでも人生にイエスという】

児童文学研究者の清水真砂子さんは、「何かを否定するのと肯定するのと、どちらが楽なんだろう」と考えたそうです。そして、「人生なんてどうせと言う人と、人生もまんざらで

精神科医のヴィクトール・フランクルは、第二次大戦中ナチス・ドイツに捕らえられ、アウシュヴィツなどの強制収容

はないよと言う人と、どちらが大変か」といつたら、「人生まんざらではないよという人のほうが、恐らく何倍ものエネルギーを使って生きているのではないか」と思うようになつたといわれています。（『幸福に驚く力』）



所で過酷な日々を過ごしました。彼は、『それでも人生にイエスと言う』という著書で、極限の状況にありながらも、人間の尊厳そんげんを失わず、生きる希望を捨てなかつた人たちを紹介しています。タイトルからして心搖さこころゆふられませんか。「あなたは、人生にイエスと言えるような生き方をしているのか」と問いかげられるようで、繰り返すようですが、私は江藤さんの決断けつだんを否定するつもりはありません。人間である限り、そんな弱さを誰しも持つてゐるから。しかし、安易に美化し、賞賛しょうさんしてはならないと思うのです。それは、厳しい状況下で「それでも人生にイエス」と言おうとしてきた人たちの歩みを否定し、空虚な形骸けいがいとして扱うことになるのですから。

【親鸞さんは凄いヤツだ】

私の尊敬する宮城顕先生から聞いたお話です。



ある冬の夜のこと。宮城先生は、ご門徒のお通夜にお参りされました。免許めんきょを持たない宮城先生は、バスで自宅まで帰らなくてはなりません。夜も更けたので急いでバス停まで行くと、男の人がベンチに座つて缶ビールを飲んでおられました。服装もちぐはぐ。絡からまれたら嫌いやだなあと思つていると、案の定「坊ぼうさん、何宗なにしゅうだ」と話しかけられたのだそうです。

「真宗しんしゅうです」と答えると、「真宗というのは親鸞しんらんさんか」と問われました。「そうです」と返事をすると、「親鸞しんらんといふ人は凄いヤツだ」と言い出したのです。寒いし、お腹はペコペコだし、もうすぐ最終バスの時間だし。気が気じゃないけれど、袂たもとをにぎつたまま一生懸命に話してこられる。よくよく話を聞くと、その方は足の先から腐くさっていく壞疽えそという病気にかかり、入退院を繰り返していたというのです。

「会社はクビになるし、生活は荒れる。家内も逃げてしまつた。娘の住所はわかっているけれども、こんな姿では会いに行けない。人生に絶望ぜつぼうして、何度も自殺を考えた。そんなある日、ぶらぶらと歩いていたら講演会の看板かんばんが目に付いた。何気な

く入ると、親鸞さんことを話していた。話の内容はちんぶん
かんぶんだつたが、何か惹かれるものがあつて、その会に続けて出席した。

結局、親鸞さんの教えはよくわからんけれど、ただ一つわかつたことがある。人間の絶望は、こんなちうちやなものじやないと教わった。俺は人生に絶望したと思っていたが、人間の悲しみや苦しみといふのは、こんな底の浅いものじやない。親鸞さんは、もつと深い悲しみや苦しみをくぐつていて。オレはいかに甘えていたかということを思い知られた。だから、もう一度人生を生き直してみようと思つている」。そう目を輝かせながら、「親鸞さんはすごいヤツだ」と何度も語られたのだそうです。

耐え難い苦しみの中で、それでも人生をやり直そうと歩み出す人がおられた。その力を生み出したのは、親鸞聖人の歩みでした。そして、深い悲しみや苦しみをくぐりながらも、人生を「イエス」と肯定できた親鸞聖人を支えていたものは、阿弥陀さまのはたらきなのです。そしてそれはたらきは、私

ちにも等しく届けられているのだと教えられるのです。

お念仏を称えるとき、私に先立ち歩んでくださつた方々の呼び声が聞こえます。すべての生きとし生ける者を肯定していく、阿弥陀の世界からの呼び声と共に。

「あなたも、この世界に遭遇つてください。いや、もうすでにあなたは、この世界に包まれ支えられているのですよ。そのことに気づいてください」と。

私たちには、すでに届けられているのです。これまでの枠組みを揺さぶるような出会いが。世間の声に抗う力が。その確かさが、今の私の拠り所となつていて

ます。■



極樂寺
ホームページ

極樂寺.comで検索

又は QR コードから



駐車場入口の 看板・掲示板が 新しくなりました



駐車場入口の看板が、かなり痛んでいたので、新しいものと取り替えました。有志の方のご協力により、立派なものができたと喜んでいます。これまで、イマイチ見えづらかったのが、今度ははっきりと目立つようになりました。ちなみに、字は住職が彫ったものです。息子が小学生時代に使っていた彫刻刀を使ったのですが、これが切れ味が悪くて…。悪戦苦闘した成果を、どうか見てやってください。

その勢いで、隣にある掲示板もリニューアルしました。これも、住職が彫りました。さすがに彫刻刀では厳しかったので、色々と道具を購入してのトライです。再入院前の大仕事。大変でしたが、とても楽しい時間でした。結構、良い感じじゃないですか？（自画自賛）



月々の言葉

Monthly Words



仏心とは
だいじん

これなり

極楽寺掲示伝道



8月の言葉

文化祭…。それぞれの話がおかしくて、そして温かくて。

中でも、一人の若手芸人さんが紹介してくれた話が、とても印象に残りました。彼はよく、クラスメイトの金髪のヤンキーに虐められていたそうです。

その日も絡まっていたところ、同じくクラスメイトの金さんという八十歳を過ぎたおばあさんが、「いじめたらあかん」と立ちはだかつてくれました。するとヤンキーは、金さんにも「なんや、クソばばあ」と絡んでいきます。

どうなることかと思ったその時、金さんは突然ヤンキーを抱きしめて、こう言いました。

「『お』に敵はおらん!」と。

するとヤンキーは、突然ボロボロと涙をこぼし始めたというのです。

そこで以前、『定時制高校芸人』という回がありました。様々な理由で定時制高校に通っていた芸人たちが、様々なエピソードを語ります。年上の同級生とのちよつと変わった学園生活、切なすぎる→

アメトローク

木曜よる11時15分

金さんというお名前から察するに、このおばあさんは在日の方なのでしょう。沢山の差別に、ご苦労に耐えてこられた方なのでしょう。そして八十歳を過ぎても、なお学びたいという思いで定時制高校に通われている。そんな風雪に耐え、→

痛みを知る金さんにとって、ヤンキーの粗暴なふるまいは、寂さ

しさの裏返しに感じられたのではないでしようか。だから、ヤンキーを抱きしめたのだと思うのです。

ヤンキーにしても、金さんのふるまいは意外なものであつたことでしょう。これまで幾度も、同じような場面で、否定され続けてきた。ところが、このおばあさんは抱きしめてくれた。「こ

こに敵はおらん！」と。そして「ここには、あなたの居場所がある」と、自分の存在を認めてくれた。だから、そのヤンキーも涙を流したのだと

思います。



仏教では、この金さんのような心やふるまいを「慈悲」といいます。

「慈悲」とは、インドのサンスクリット語のマイトリーという言葉の訳なのですが、もともとは「友」「親しきもの」という意味

で、相手を親しき者として、思いやり、慈しみ、大切に

思う心です。

「悲」とは、カルナーという言葉の訳で、「優しさ」「憐み」「情け」を意味します。このカルナーには、もともと「うめき声」という意味があるそうで、そこから苦しみを共にし、悲しみを共にするという心をあらわすようになりました。

仏教学者の中村元先生は「慈悲行の実践者は『他人の苦しみを苦しむ人』である」といわれていますが、まさに金さんは自分のこれまでの経験を通して、ヤンキーの寂しさや苦しみに寄り添い、共に苦しまれたのです。だからヤンキーも、その温もりに触れて素直になれたのでしょう。

この慈悲の実現を目指すのが、仏に成る道、仏道なのです。

「慈悲は仏道の根本なり」（『大智度論』）、つまり慈悲こそ仏道の中心であり、慈悲は仏そのものであるといわれますし、また「仏心とは大慈悲、これなり」（『觀無量寿經』）、仏様の心を一言であらわすと大慈悲心だともいわれているほどです。

ところがこの慈悲の実現は、実に難しいのです。金さんが

抱きしめ、ヤンキーがその温もりを受け容れて、涙をこぼし
た…。これは、風雪に耐えてこられた金さんだからできたこ
とであつて、私が同じように抱きしめてもヤンキーが涙をこぼ
すとは限りません。いや、「オッサン、気持ち悪いぞ」と怒ら
せぬことさえあるでしよう。

また金さんが、他の場面で同じようにふるまつても、同じ

く相手が涙をこぼすかなど…、これもわかりません。相
手の心情にもよるし、その場の状況にもよるし。かえて相手
を傷つけたり、甘やかせたりと、逆効果になる場合さえあり
ます。慈悲のふるまいに、マニュアルなどありません。つまり、
正しくものを見る真実の智慧がなければ、真実の慈悲は成り
立たないのです。

生きてしまうのではないか。そんな理想と現実との隔たり
を痛切に受け止め、冷静に見つめられたのが親鸞聖人でした。

親鸞聖人は、自身を省みて

「小慈小悲もなき身にて
かえり

うじょうりやく
有情利益はおもふまじ」

『正像末和讃』

とまでいわれています。

小慈小悲とは、自分の身に関わりのある者だけに起こす、
人間の小さな思いやりの心です。しかし、それすらも持ち合
わせていないのが、この私であつた。そんな自分が、世の苦惱
する人々を救うためなどできるわけがないと。

もちろんこれは、本気で苦悩する人々を救いたいと行動し
たにしかいえない言葉です。理屈だけで「オレにはできない
し」と安易に考える私と、一緒にしてはいけません。親鸞聖
人の言葉は、深い挫折と痛みが込められた言葉なのです。

真実の智慧を持たない者が、慈悲を実践するどいことは、
極めて困難です。だから私たちは、相手のことを思うがゆえ
に相手を傷つけたり、相手のことを思う建前で、自分

の思いを押し付けたりと、すれ違い、仲違いをしながら、
のんびりと、ただ絶望されただけなのでしょうか。先ほどの言



葉は、このように続きます。

「如來の願船いまさずは

苦海をいかでかわたるべき」（『正像末和讚』）

このようない私たちのために、阿弥陀さまの願いが用意されて、苦しみの大海上を渡る船のように、阿弥陀さまのはたらきが届けられているのだと。

つまり、私たちは周りの人に慈悲を実践することはできない。しかし私たちには、阿弥陀様の大慈悲が届けられている。だからこそ、眞実の慈悲の温もりを共にいただき、分かち合つて、いこうと、人生を歩ませたのです。

阿弥陀さまは、この私を慈しみ、大切に思つてくださつて、いる。私の苦しみに寄り添い、共に悲しんでくださる。そして、その大慈悲は、あなたにも届けられている。共に大慈悲に包まれている仲間として、温もりを分かち合いながら、お互いの存在を認め合い、尊び合いながら、歩んでいこう。これこそが、親鸞聖人の歩みであると教えられるのです。

とはいっても、阿弥陀さまのはたらきで → さえ、自分

の手柄にしたがる私です。どこまでも「してやつたのに」とい

う思いも消えません。まさに、親鸞聖人が指摘された通り、

「雜毒の善」（毒が雜じつた善『淨土文類聚鈔』）そのもの。最後

まで面倒を見切れないくせに、その場では良い顔をしたがるのも私です。阿弥陀様の「するどほりたる」（徹底した『歎異抄』）大慈悲心とは大違い。どこまでも、未通る」とはありません。

ただ、この自覚を与えられるからこそ、私は私を振り返り、問いつぶすことができるのです。「自分の正義を押し付けてはいるのか」「相手のことを思つているか」「同じようなことを、繰り返していないか」と、我に返ることが。

そしてこの嘗みの先に、また新たな出会いとふれあいが生まれてくるのだと、知られています。これもまた、阿弥陀さまの智慧と慈悲のはたらきによるものなのでしょう。私は、そうういだしているのです。■



何をするか
わからぬ手



この手のままで

極楽寺掲示伝道
合掌する

9月の言葉

他愛もない会議での、些細な話です。でも私は、そのやり取りを目の当たりにして「これは、大切なことを教えられたぞ」と背筋が伸びる思いがしたのです。

ある会議のことです。キヤリアを重ねられ、しかも影響力ある立場の方が、「これは、おかしいじゃないか」と指摘されました（いや、クレームといった方が正しいかもしません）。

どうが私たち、反射的に自分の正当化を優先してしまって。それは、不快な思いにさせた人を無視し、自分が不快にさせたという事実から目を逸らすことなのです。自分では取り繕つた気になつても、周りから見れば

すると、その経緯について詳しい方が、その指摘が的外れであること、それどころか指摘をされた側に対し失礼にあたることを、丁寧に伝えられました。

それを聞いてクレームをつけた方は、「事情については、よくわかった。しかし…」と、あくまでも自分は間違つたことを言つていないと、主張し始めたのです（その主張も、かなりムリなものでしたが）。



「これくらいのことでも、何を大袈裟な」と思われる方もあるかもしません。しかし、「眞実は細部に宿る」などという言葉もあるように、こんな他愛もないことにこそ、人間というものが露わになるのではないでしようか。そして「これくらいのこと」と、軽く考えること自体、実はとても危険なことなのです（影響力ある立場の方は、特に要注意です）。

イソップ物語に、こんな寓話があります。少年たちが、池にいる蛙に石を投げつけて遊んでいると、一匹の蛙が顔を出していました。「どうか、やめてください。私たちに石を投げるのは、あなた方にどうては遊びかもしれませんが、私たちにどうては、死なのです」と。

（『少年と蛙』）

実は私、長い付き合いの友

人から「お前、あの時こんなこと言つたよな。オレはあの時、

結構傷ついたんだぜ」とい



われたことがあるのです。友人を傷つけるつもりなど、サラサラありません。無邪気な思いで、軽い気持ちでいった一言です。それが、彼を傷つけていた。自分にどうては小石のような些細なことでも、彼には深い傷跡として残つていた。そのことに気づかないまま、年月を重ねてきたことに申し訳なく、恥ずかしい思いをしたのです。

「他愛もない」「些細な」と思うようなことで、人は深く傷つくことがある。だからこそ、細部をも問い合わせねばならない（影響力ある方は、なおさらです！）。そして安易な自己正当化は、重ねて相手を傷つけることにもなりかねない。だからこそ、自分自身のふるまいを問い直さねばと、改めて背筋が伸びたのです。

これは、昨今のSNS上で繰り広げられる、誹謗中傷の書

き込みにも通じます。メディアが報じる断片的な情報だけで、自分に都合良く切り取り、安易な正義感を振りかざし、投稿する。しかしその中傷は確実に人を傷つけ、時には殺していく。こんなことは、いくらでも起っています。

書き込んだ人たちは言うのです。「軽い気持だつた」「何気なくやつただけ」と。そうして自分を正当化し、開き直り、論破ろんぱした気になる。しかしされる側にとつて、それは「死」なのです。

「そんなことを言われたら、何も言えないし、何も行動できない」



と言われる方もあるでしょう。しか

し、そのことに自覚的じかくできであることは、とても大切なことなのです。麻痺まひしてしまうと、その残酷ざんくさに気づくこともできないから。ブレーキをかけることもできなくなるから。何より、安易な自己正当化の言葉は、傷ついた心をより深くえぐるのです。自分がされる側に回つた時のことを考えると、ゾッとします。

れでいると感じることはできない。逆に言えば、自分の汚れに気づかされたことこそが、澄んだ清らかな世界と出遇つている中で、自分のありようを深く見つめる営みを「慚愧ざんき」といふのです。

証拠しょうこなのだと。

この清らかなる世界との出遇いを、浄土真宗では「阿弥陀さまとの出遇い」といいます。そして、阿弥陀さまとの出遇いの中で、自分のありようを深く見つめる営みを「慚愧ざんき」といふのです。

私たちは、自分では小石を投げて遊んでいるつもりでも、どう人を傷つけているかわかりません。

何をでかすかわからない私である。そのことを忘れないままに、合掌する。そこにこそ、阿弥陀さまとの出遇いが、傷つけた相手との出会いが開かれていくのです。

ただし、真宗大谷派の僧侶・宮城顕みやぎしづか先生は、慚愧するが故に陥る落とし穴について、警告されています。

仏教学者の大田久紀先生は、「汚れが汚れを知るためには、汚れでないものがなければならぬ」といわれたそうです。汚れていない澄すんだものとの出遇いがなければ、自分が汚→

れども、あいつは出遇えていない…」

こうなつてしまふと、もう慚愧とはいえない。単なる自己正当化なのだと、宮城先生は指摘されるのです。なんと、切れ味鋭いツツコミなのでしょうか！心当たりがありすぎて、ぐうの音も出ません。

私たちは、どこまでも反射的に自己正当化するのでしよう。慚愧さえも利用して。そうして慚愧したことが、かえつて慚愧に反する心になつてしまふ。この事実を親鸞聖人は、「無慚無愧」といわれているのだと宮城先生は示されるのです。

「無慚無愧のこの身にてまことの「こうはなけれども

弥陀の回向の御名なれば功徳は十方にみちたまふ」

（『正像末和讃』）

そんな無慚無愧の身の事実と向き合い、常に自らのあり方を問うていく。「弥陀の回向の御名（阿弥陀さまの呼び声であるお念佛）」という、私をうながしている世界と常に遭遇していく。その営みこそが、まさに合掌すると、ことな

のだと教えられるのです。

いやはや、仏法の世界は深い。そして私の迷いも、これまた深い。そんなことを味わいながら、今日もまた手を合わせ、自分の生き方を問いつなお直さねばと思つています。■



極楽寺だよりを 送りませんか

都会に出ておられる子ども
さん、お孫さんたちへ
有縁の方々へ。
お寺へお申し出下さい。
直接郵送します。
送り先が増えると、
住職はうれしいのです。

家庭で眠っている物を、活かしませんか

書き損じはがき・未使用切手 CD・DVD
未使用テレfonカード ゲームソフト・ゲーム機器
商品券・ビール券など金券・未使用タオル



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



フルトップも、集めています！

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。



お念珠の修理いたします

お念珠のヒモは切れるもの。不吉なことではありません。

お寺で修理いたします。お持ちください。

古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください

本堂に回収箱を設置しています。



仏事、葬儀、納骨…、わからないことや困ったことがあれば、
極楽寺にご相談ください。ご遠慮なく、どうぞ

TEL 0837 (43) 0625



今年のカープは、見るも無残な状況です。優勝争いどころか、5位に落ち込みそうな様子（ヤクルトのおかげで、最下位がないのがせめてもの慰めです）。苦しむ私に、心配した若院が「もう見るのは止めたら。免疫力が下がるよ」と忠告してくれました。でも、良い時も悪い時も、共に歩むのがファンなのです。ダメな時だからこそ、苦しみを共にしなければ。そんなファン心理は、まさに阿弥陀さまのはたらきに重なるようだと思いながら、厳しい日々を送っています。

子ども会のご案内

大津東組

(長門・三隅地区の真宗寺院の集まり)

キッズサンガ

火起こし体験と
飯盒炊飯



8月 29日 (金)

東深川 善正寺

13時極楽寺集合 20時半頃帰宅

送迎は、お寺で行います

参加費 500円

8月15日までに、
お寺へお申し込みください。

これからも不備や間違いが多々あるかと思いますが、成長できるよう皆さま見守ってくださいと思いま

極楽寺

夜の子ども会

花火と
かき氷の夕べ



8月 21日 (木)

夜7時30分から9時には終ります。

極楽寺境内にて

申し込み不要・参加費なし
中高生も、どなたでもどうぞ

詳しくは、お寺へおたずねください。

私がお寺に戻ってきて四ヶ月ほど経ちました。あつという間のようにも、すごく長い期間な気もする四ヶ月でした。多少勉強させていただい

てはいましたが、実際に法座やおつとめをするのとでは、全然違います。たつた四ヶ月では、まだ成長という

ものも感じられません。

す。
これからも不備や間違いが多々あるかと思いますが、成長できるよう皆さま見守ってくださいと思いま

若院通信
じゃくいん
つうしん



葬儀の連絡は、真夜中でも結構です！

親しい方が亡くなられたら、皆さん動搖されます。これからどうすれば良いのか」と、不安になる方多くあります。近頃は葬儀社さんも働き方改革で、夜中に対応する人と実際に葬儀を担当する人とを分けておられるようです。そのため引継ぎが上手くいかず、行き違いやすれ違いのケースも目にします。遺族の方に、しっかりと寄り添うためにも、お寺の者が間に入ります。どんな時間でも結構です。遠慮なく、ご連絡ください。

納骨堂新築計画進行中です

極楽寺の納骨堂新築計画が進んでいます。これから維持管理を考えると、お墓よりも納骨堂の方が負担は確実に少ないと言えます。ご門徒以外の方でも大丈夫です。遠慮なく、お寺までご相談ください。

今年も「極楽寺Tシャツ」受け付けます！

今年も、一枚1,000円のご懇意で受け付けます。

カラーバリエーションも豊富！気軽に申込みください。



□ 薬を変えるための、三週間の再入院。これまでの薬は、副作用がほとんどありませんでしたが、今回はどうなのか。覚悟を決めて臨みましたが、便秘以外はそうでもありませんでした。あとは髪の毛が抜けるくらいで、相も変わらぬ生活をしています。□ さて副作用といえば、嬉しいものもありました。久しぶりに友人が連絡をくれたり、遠方からわざわざ訪ねてきてくれたのです。久しぶりの楽しい時間を過ごすことができました。歳を重ねていくほどに、よほどキッカケがなければ、友人と会うことも少なくなっています。でも、こうして会えたのは、まさにがんの副作用。不謹慎かもしれませんが、有り難いことだと思っています。本当は、健康な時の方が会いやすいのでしょうか、そんな時には逆に、無駄に雑に時間を過ごし、出会いをおろそかにしているのかも。こんな気づきもまた、良き副作用だと言えるかもしれませんね。□ そんなこんなで、今月もまた長い文章になってしまいました。これはもう、あきらめてもうしかないと、開き直りの思いが半分。それでも尚、少しでも字数を減らそうと、苦闘している現状が半分です。どうかこんな私を、温かく見守ってやってください。（住職）

三隅親鸞聖人 鑽仰会法会の ご案内

講師

落語家 桂春蝶先生



十月十八日（土）

十九日（日）

両日共 午後一時半より

兔渡谷 常楽寺

三隅地区八ヶ寺を順番に会所として勤修される親鸞聖人鑽仰会法会。

今年は兔渡谷の常楽寺が引き受けで、落語家桂春蝶先生をお迎えして勤まります。

釈徹宗先生監修の創作落語「鏡の中の親鸞」も演じられます。ぜひお参りください。

お寺で、送迎いたします。気軽に申込みください。

次回法座の予定

納骨堂追悼法要 9月23日（火）秋分の日

秋の永代経法要 11月12日（水）13日（木）

御講師 中島昭念 師（美祢市 明嚴寺住職）